

2023年度 哲学若手研究者フォーラム
WS 美学と自己

美的自己の〈安定〉と〈逸脱〉

伊藤迅亮（京都大学 人間・環境学研究科 修士2年）

2023年7月15日(土)12:50-14:50 | 国立オリンピック記念青少年総合センター

目次

■ §1 vs. 快楽主義

- ▶ 美的価値論における論争（快楽主義とその敵）をざっくり紹介する
- ▶ 反快楽主義の理論の一つとして、ロペスのネットワーク説を説明する

■ §2 リグルの共同体主義——逸脱の重視

- ▶ 反快楽主義・反ネットワーク説として、リグルの共同体主義を説明する
- ▶ リグルの立場は、逸脱の自由を重視する立場であることを示す

■ §3 自己の〈安定〉と〈逸脱〉

- ▶ リグルの言う逸脱は自己の安定性を前提とすることを論ずる
- ▶ 美的価値論についていくつかの示唆を引き出す

1

vs. 快樂主義

Keywords:

美的快樂主義

ロペスのネットワーク説

美的価値論における快樂主義

- 問 | あるものが美的に良い、美的に価値があるのはどうして？
- 答 | それが**快樂**を与えてくれるからだよ
見ると気持ちがいい／感動する／ドキドキするからだよ
- **美的快樂主義 aesthetic hedonism**
あるものが美的に良いとは、そのものが適切な状況下の鑑賞者に美的な快樂を与えられるということ
- 美学にとって伝統的であり (e.g. ヒューム、カント)
かつ現代でも根強い支持のある理論 (e.g. ビアズリー)

快樂主義の微調整・洗練

■ 快樂ではなく、価値ある経験へ

- ▶ ホラーやサスペンスにおける美的経験をどうやって説明するのか？
- ▶ そこで、快樂ではなく、より広い「価値ある経験」に訴える

■ 理想的批評家の設定

- ▶ 素人がしょうもない作品を見ていても、快樂を得ていたら立派な美的価値を享受したことになってしまうのでは？
- ▶ とはいえ、駄作と傑作の間には美的価値の違いがあるはずだし、素人よりも玄人の方が良さを適切に見てとることができる
- ▶ そこで、美的価値を判定する際の基準となる理想的批評家を想定する

反快楽主義の流れ

■ 反快楽主義

- ▶ 2010年代ごろから増えてきた立場(Van der Berg 2019; 森 2020)
- ▶ 美的価値の規範性を、主体の快楽や経験以外のアイテムによって説明する
- ▶ 主体の経験の「外」に出ていく理論が多い
- ▶ 例えば、以下の理論がある

■ シェリーの対象説(Shelley 2010)

- ▶ 対象がそれ自体で価値を持つ（対象の価値を経験の価値から説明しない）

■ **D・M・ロペスのネットワーク説**(Lopes 2018) → この後すぐ

■ **N・リグルの共同体主義**(Riggle 2022a; 2022b) → §2

ロペスのネットワーク説 (銭(2022)に倣った整理)

- ① 快楽（価値ある経験）ではなく、**達成 (achievement)**
 - ▶ 快楽をもたらさなくても、美的価値に反応して行っていることがある
 - ▶ 達成こそが、美的価値の理由付与性（規範性）を説明する
 - ▶ 例 | 集客のために自分の好みでない流行りの曲を扱うダンス教室の先生
- ② 理想的批評家ではなく、**ローカルエキスパート**
 - ▶ 美的価値の判定の際に一般的な基準となる理想的批評家は存在しない
 - ▶ むしろ、各実践ごと（絵画制作、映画保存、ダンス実演、グラフィックデザイン教育、ファッション批評などなど）にエキスパートがいる
 - ▶ このローカルエキスパートの達成が、実践における成功基準を定める

ネットワーク説の定式化、実践内的な規範性

- テクニカルな定式化もあるのだが、簡単なバージョンを紹介する
- **ネットワーク説 network theory** (Lopes 2022, 67)
ある美的種に属するあるものが美的に良いとは、
その種に関する社会的実践の中での美的行為者たちの
共有されかつ調和した活動を導くということ
- ネットワーク説が説明する規範性は、各実践内で閉じている
 - ▶ 〈行為者は、行為するのであれば、うまく行為すべき、達成すべきだ〉
という一般原理が置かれている(Lopes 2018, 202)
 - ▶ つまり、実践の内部者であれば、達成する理由があるということ

ネットワーク説の問題 | 外部者懐疑論

- 実践の内部者であれば、達成する理由がある。なら、外部者は？
- ネットワーク説は、**実践内**の規範性は説明できても**実践間**の規範性は説明できないのでは？ (Lopes 2018, 202)
 - ▶ 快楽主義においては外部者懐疑論は生じない(Lopes 2018, 203-4)
 - ▶ なぜなら、理想的批評家はいわば万人に対する規範なので
- **外部者懐疑論** |
自分が属していない実践において通用している規範は、
自分の美的生活や実践に影響を与えなくなってしまうのでは？

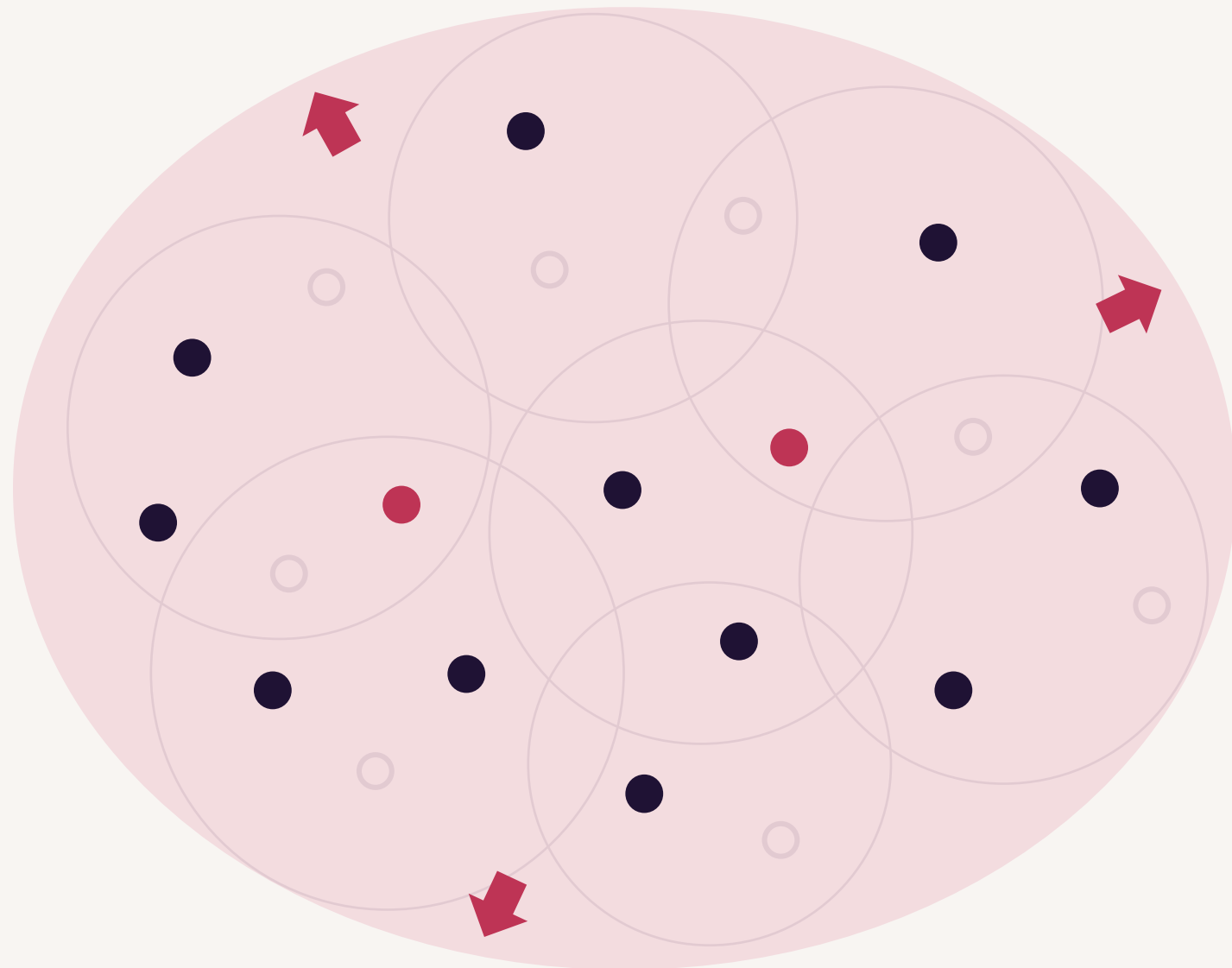
§1 | まとめ (Riggle(2023)の図を参照して作成)

美的快樂主義

- 理想的批評家
- 美的行為者 (快樂あり)
- 美的行為者 (快樂なし)

○ 各美的実践

絵画制作、詩の朗読、
映画批評、彫刻の保存、
ダンスの実演、などなど



§1 | まとめ (Riggle(2023)の図を参照して作成)

ネットワーク説

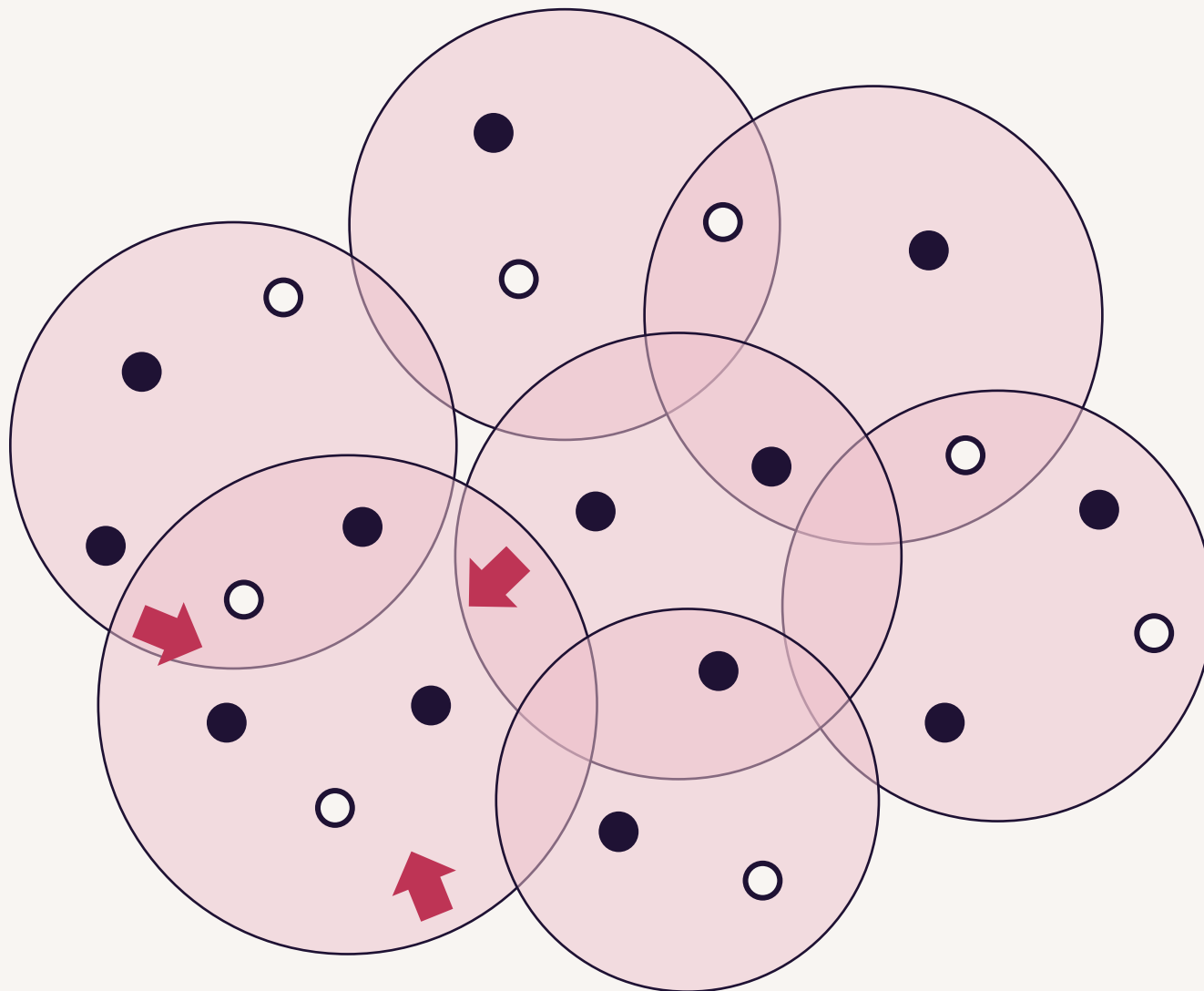
● 理想的批評家

● 美的行為者 (快樂あり)

○ 美的行為者 (快樂なし)

○ 各美的実践

絵画制作、詩の朗読、
映画批評、彫刻の保存、
ダンスの実演、などなど



§1 | まとめ (Riggle(2023)の図を参照して作成)

ネットワーク説

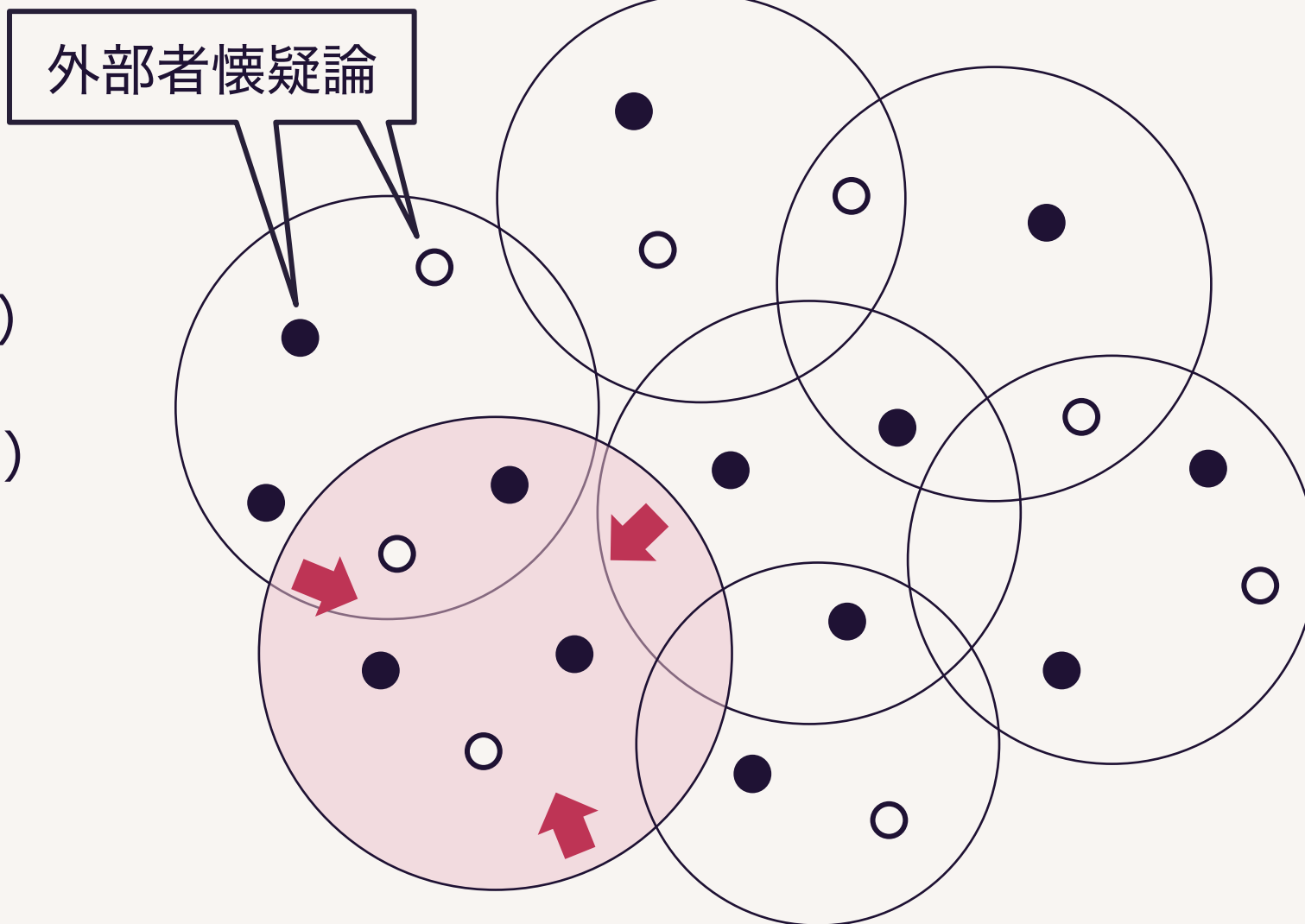
● 理想的批評家

● 美的行為者 (快樂あり)

○ 美的行為者 (快樂なし)

○ 各美的実践

絵画制作、詩の朗読、
映画批評、彫刻の保存、
ダンスの実演、などなど



2

リグルの共同体主義 ——逸脱の重視

Keywords:

共同体主義

個性・自由・共同体

逸脱の自由

共同体主義 | Riggle(2022a)による転回の試み

- Riggle(2022a)では、外部者懐疑論からネットワーク説が批判され新たに共同体主義という理論が提示される(以下 Riggle(2022a)の議論)
- **共同体主義の基本理念** | 美的現象の場は共同体
 - ▶ 個人主義 | 美的現象の場は個々人 (快樂主義・ネットワーク説)
 - ▶ 共同体主義が念頭に置く美的価値の事例は以下のようなもの(23)
 - 「一緒にご飯を食べる」 「冗談に反応して一緒に笑う」
 - 「集団で踊る」 「合唱する」 「ある人のスタイルが別の人を触発する」
- この論文でリグルは、美的価値論における転回——個人主義から共同体主義への転回——を試みている

“ いずれにせよ、共同体主義者は、美的生活を主として個人が送るものだと、ないし基本的に個人に益するものだと考えるべきではないと強調する。すなわち、他者の美的生活は、関与する理由が無いに等しいような疎遠な生活ではないのである。美的生活とは、**私たち**が送るものであり、判断や創造的活動において、共同の活動と観賞への誘いにおいて、**私たちが絶えず作り上げ維持しなければならないものでもあるのだ。美的共同体主義者にとって、美的生活は実に他者志向的・他者関与的 (other-regarding and other-concerning) なのである。** (24)

共同体主義の定式化(1)

■ 形式的に説明すると……(25)

- ① 美的生活が送るに値するのは、それ抜きでは得られない
共同体的な善 (communal goods) を与えてくれるから
 - ② これらの善によって構築される実践として
美的価値づけ (aesthetic valuing) の実践を定義する
 - ③ 美的価値づけの実践において特定の役割を果たすもの全てを
(美的価値づけの実践に値するもの全てを) **美的価値**と定義する
- 共同体的な善 ▶ 美的価値づけの実践 ▶ 美的価値

共同体主義の定式化(2)

■ 美的価値づけの実践⁽²⁶⁾

個性を育み、美的自由を促進し、美的共同体を生み出す仕方で、対象を作り、対象や他者に関与する実践のこと

■ 美的価値づけの実践が実現する共同体的な善とは、 個性・美的自由・美的共同体の3つ

■ 美的共同体主義 (Aesthetic Communitarianism) ⁽²⁶⁾

あるものが美的に良いということは、
それが美的価値づけの実践に値するということ

個性・美的自由・美的共同体の3要素

■ 個性 Individuality

- ▶ 「価値づけ実践における選択の実行から帰結する人の特徴」 (26)
 - 価値づけ実践の多くは強制的だが、美的な対象に対する価値づけ
(多様な美的対象の中でどのような美的対象を価値づけるか) は、任意にできる

■ 美的自由 Aesthetic Freedom

- ▶ 「意志が開かれた仕方 (in a volitionally open way) 行為する能力」 (26)
- ▶ 非傾向的 (nondispositional) で「不確定 (indeterminate)」の、
自己構成的な気質によって決定されないという自由

■ 美的共同体 Aesthetic Community

- ▶ 個性を表現し、美的に自由に行為する人の集まり

共同体主義の図解 (Riggle(2023)の図を参照して作成)

● 美的行為者 (快樂あり)

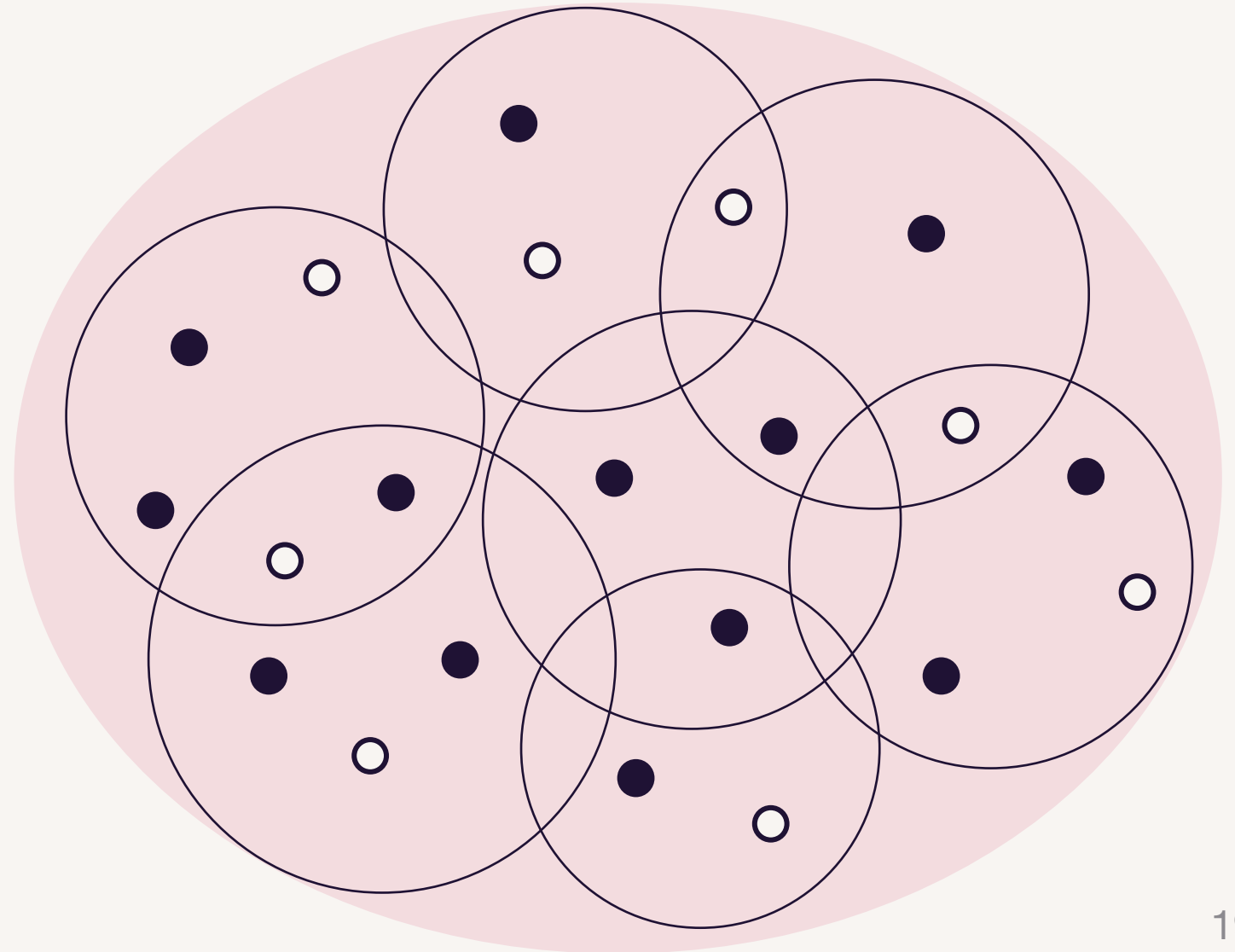
○ 美的行為者 (快樂なし)

○ 各美的実践

絵画制作、詩の朗読、
映画批評、彫刻の保存、
ダンスの実演、などなど

● 共同体的な善

個性・美的自由・美的共同体



逸脱する自由

■ リグルの言う美的自由とは、いわば**逸脱する自由**

▶ 自律・コントロールとしての自由とは対照的な自由概念

“ 私たちの音楽フェスでの行為や、美しい詩や小説に応じる行為、お笑い番組や夕食会、ダンスパーティーでの行為は、より**遊び心・冒険・探検にあふれ、開かれた**ものである。これらの瞬間において、私たちの**自律——通常モードの自治——は緩まり**、世界とそれが具える価値に対するより**開かれたモードの関与**に座を譲るのである。(Riggle 2022b, 48-49)

■ 非自律的・非コントロール的で、playやadventureとも言える自由

逸脱を重視する美的価値論 | 根拠①

- リグルの美的価値論は逸脱（美的自由）を重視するものと言える
- 根拠① | これ抜きには外部者懐疑論に対応できない
 - ▶ Riggle(2022a)はロペスのネットワーク説が抱える外部者懐疑論を重く見る
 - ▶ 〈ある美的生活が、それが属する実践とは別の実践に属する美的生活にも影響を与える〉という見方を全面的に認めるのが、
ネットワーク説に対する共同体主義の利点
 - ▶ この見方を可能にする要素は、共同体主義の善の中では、美的自由のみ
 - 個性は、美的生活の任意性（そしてそれによって実現される美的生活の多様性）の良さを説明するだけで、他の美的生活への開かれを可能にするわけではない（実に、ネットワーク説においても個性はあると言える）

逸脱を重視する美的価値論 | 根拠②

■ 根拠② | リグルの他文献にも逸脱の自由は重要な概念として登場

▶ Riggle(2017) 『オーサムであることについて』

- 社会的役割や社会的規範を破って、社会的な開かれを作り出し、
周囲の人がそれに対してうまく反応することをオーサムな事態と呼ぶ

▶ Riggle(2020) 「変容的表現」

- 参加型アート of 美的価値を、変容的表現
(自らの中核的なコミットメントから解放されて行為すること) から説明する

▶ Matherne and Riggle(2020; 2021) 「シラーにおける自由と美的価値」

- フリードリヒ・シラーの『美的教育書簡』に、美的価値と自由の結びつきを見出し、
シラーを美的価値の共同体主義の擁護者であることを示す

§2 | まとめ

- リグルはネットワーク説が抱える外部者懐疑論に注目し、反快楽主義・反ネットワーク説の**共同体主義**を提示する
- 共同体主義が美的価値の規範性の源とするのは**個性・美的自由・美的共同体**という共同体的な善
- リグルの挙げる美的自由とは、**逸脱**によって特徴づけられる自由
- リグルの美的価値論はこの**逸脱の自由**を重視するもの

3

自己の〈安定〉と〈逸脱〉

Keywords:

愛・愛着

〈安定〉と〈逸脱〉

逸脱の自由はなんぼあってもいいものなのか？

- 美的自由（逸脱の自由）はなんぼあってもいいものなのか？
- 快楽や達成によって美的価値を説明するのであれば、
快楽や達成が増えれば増えるほど美的価値も増える
 - ▶ 美的生活のすべてを快楽や達成で満たせば、美的価値は最大となる
- 他方で、美的自由によって美的価値を説明する場合、
美的自由が増えれば増えるほど美的価値が増えるわけではない
 - ▶ 美的生活のすべてを美的自由で満たしても、美的価値は最大とならない
 - ▶ 以下に述べるように、すべてを美的自由で満たそうとすると、
美的自由を美的自由たらしめるものが失われるから

ランダムさんとインテグラルさん(伊藤 2023)

- **ランダムさん**はおしゃれ好きで、ものすごく多くの、そしてバラエティに富んだ服をもっています。そして、毎日異なる種類の洋服でおしゃれを楽しんでいます。—昨日はストリート、昨日はモード、今日は古着、明日はフォーマル……。
- そしてもう一人、おしゃれ好きの**インテグラルさん**がいます。インテグラルさんも確かにおしゃれなのですが、ランダムさんとは対照的に、服は似たような種類のものをいつも着ています（例えばノームコア）。毎日似たような白Tとデニムを身に纏い、インテグラルさんもお気に入りの服でおしゃれを楽しんでいます。

インテグラルに可能で、ランダムに不可能なこと

- この例において、
インテグラルは美的自由（逸脱）が可能だが、ランダムは不可能
 - ▶ ランダムは普段から様々な種類の服を着ることで逸脱できなくなっている
- なぜ？ インテグラルには逸脱をそれとして意味づけるための安定した、いわば踏み固められた実践があるのに対し、
ランダムにはそうした安定した実践がない
 - ▶ ただし、どちらもリグルの言う意味での個性（価値づけ実践における選択の実行から帰結する人の特徴）はある
 - ランダムさんは「興味の範囲が広い」、インテグラルさんは「保守的」

逸脱は安定した自己を前提とする

- 美的自由（逸脱）が可能となるためには、その元手となる安定的な実践（安定した自己のコミットメント）が必要なのでは
 - ▶ この安定的な自己のあり方はリグルの言う個性とは異なる
 - ▶ 先の例においては、両者ともにリグルの言う個性は認められる
- 逸脱をまさしく逸脱たらしめるのは
美的生活の多様性や任意性を可能にする個性というよりむしろ
美的生活を営む自己のあり方が安定しているという意味での個性
 - ▶ 自己の安定性を元手・足場にすることで初めて逸脱が可能になる

Riggle(2022a)の善には安定も含まれるべき

- これまでの議論より、美的自由の前提には安定した個性がある
- そして、安定した個性を発揮する美的関与にも価値がある
- 安定した関与の仕方はしばしば**愛・愛着**に準えられ、逸脱的な関与とは対比される
 - ▶ お気に入りのアーティストがいて、その新譜が出たらすぐ聴く、足繁くライブに通う、出演した番組をチェックする、音楽雑誌でのレビューもくまなく読む——こうした関与は、対象への愛・愛着を育むもの
- 共同体の善に安定した個性を
(あるいはリグル的な個性に安定性を)を加えるべきではないか

安定した個性を組み込むもう一つの理由

- リグルの美的理想についての議論(Riggle 2015)は、安定した個性の価値を（そして同時に自己から逸脱する価値も）示唆している

“ 私たちの美的生活は二つの相反する目標に導かれている。一方では、私たちは**意義深い美的愛着**を保持・涵養しようとする。しかし同時に、**より広い美的価値の世界**を追求しようともするのだ。(Riggle 2015, 443)

- ▶ また、リグルは個性を非固定的・動的なものと捉えるが(Riggle 2022b, 47)、個性を安定的なもの捉えることはこれを否定するわけではない

個性と美的自由の関係

- リグルのこれまでの共同体主義の説明(2022a; 2022b)では、
共同体的な善として枚挙的に個性と美的自由が示されるが、
その枚挙は恣意的ではないか？という懸念がありえる
- 本発表の主張に従えば
(安定した) 個性と美的自由との間には結びつきがあると言える
 - ▶ 個性が安定していればいるほど逸脱が起こりやすくなる
 - ▶ 逸脱を逸脱として意味づけるには安定した個性が必要となる
 - 安定した個性は必ずしも美的自由を導くとは限らないが、その可能性を高めるし、少なくとも美的自由が実現する必要条件には安定した個性が含まれる

美的価値論の試金石としての〈安定〉と〈逸脱〉

- リグルは（特に2022aで）〈逸脱〉の美的価値を重視するが、その成立条件となる〈安定〉にも美的価値があった
- 美的生活には次の二つの側面があり、どちらにも価値がある
 - ▶ **〈安定〉** | 安定、愛、愛着、閉ざされ
 - ▶ **〈逸脱〉** | 逸脱、自由、遊び、開かれ、冒険
- とすれば、この二側面は美的価値論の試金石となる
 - ▶ 安定サイドの説明だけでも不十分だし、逸脱サイドの説明だけでも不十分
 - Lopes(2022)では冒険説が提示される。これは、安定サイドの説明が強いネットワーク説の下で逸脱サイドをも説明しようとした試みだと言える

おまけ

ランダムとインテグラルの図解

	ランダム	インテグラル
美的自由（逸脱）	不可能	可能
リグル的な個性 （任意性・多様性）	あり	あり
安定した個性	なし	あり

想定反論 | ランダムも逸脱できるのでは？

■ 想定反論 | ランダムも逸脱することができるのでは？

- ▶ 例えば、ランダムにとっては、
インテグラルのように毎日似たような服を着ることが逸脱になる

■ 再反論 |

- ▶ 原理的には、ランダムも「逸脱」することはできると思う
- ▶ ただ、伊藤としてはランダムのそうした「逸脱」を逸脱として特徴づけるリアルな実践が思い浮かばない
- ▶ 逸脱とは「閉ざされ→開かれ」を指すように思われるが、ランダムの実践はいわば「開かれ」きってしまったっており、逸脱するためには一度「閉ざされ」る必要があるのではないか？
そして、ふつう「開かれ→閉ざされ」は安定と呼ばれるのではないか？

参考文献

- Lopes, Dominic Mclver. 2018. *Being for Beauty: Aesthetic Agency and Value*. Oxford University Press.
- Lopes, Dominic Mclver. 2022. "Getting into It: Ventures in Aesthetic Life." In Lopes, Nanay, and Riggle 2022, 61–86.
- Lopes, Dominic Mclver, Bence Nanay, and Nick Riggle. 2022. *Aesthetic Life and Why It Matters*. Oxford University Press. (『なぜ美を気にかけるのか——感性的生活からの哲学入門』 森功次(訳). 勁草書房. 2023.)
- Matherne, Samantha, and Nick Riggle. 2020. "Schiller on Freedom and Aesthetic Value: Part I." *The British Journal of Aesthetics* 60(4): 375–402.
- Matherne, Samantha, and Nick Riggle. 2021. "Schiller on Freedom and Aesthetic Value: Part II." *The British Journal of Aesthetics* 61(1): 17–40.
- Riggle, Nick. 2015. On the Aesthetic Ideal. *British Journal of Aesthetics* 55(4): 433–47.
- Riggle, Nick . 2017. *On Being Awesome: A Unified Theory of How Not to Suck*. Penguin Books.
- Riggle, Nick. 2020. "Transformative Expression." In *Becoming Someone New: Essays on Transformative Experience, Choice, and Change*, edited by Enoch Lambert and John Schwenkler, 162–81. Oxford University Press.
- Riggle, Nick. 2022a. "Toward a Communitarian Theory of Aesthetic Value." *The Journal of Aesthetics and Art Criticism* 80(1): 16–30.
- Riggle, Nick. 2022b. "Aesthetic Lives: Individuality, Freedom, Community." In Lopes, Nanay, and Riggle 2022, 32–60.
- Riggle, Nick(@nickriggle). 2023. "Here's a hopefully useful diagram of some theories of aesthetic value and their scopes that I might use for talks and lectures." Twitter text and photo, June 14, 2023. <https://twitter.com/nickriggle/status/1668673608154238976>.
- Shelley, James. 2010. "Against Value Empiricism in Aesthetics." *Australasian Journal of Philosophy* 88(4): 707–720.
- Van der Berg, Servaas. 2020. "Aesthetic Hedonism and Its Critics." *Philosophy Compass* 15(1): 1–15.
- 伊藤迅亮. 2023. 「筒井晴香(2021)「自分を美しく見せることの意味」のまとめ&コメント」. 『エウダイモンな李徴』 . Accessed July 10, 2023. <https://eudaimon-richo.hatenablog.jp/entry/2023/01/05/221741>.
- 銭清弘. 2022. 「美的に良いものはなにゆえ良いのか」 . 『obakeweb』 . Accessed July 10, 2023. <https://note.com/obakeweb/n/na0d660b74e3d#ayncG>.
- 森功次. 2020. 「美的なものはなぜ美的に良いのか——美的価値をめぐる快樂主義とその敵」 . 『現代思想』 49(1): 86–100.